

京都府教委の『心の教科書（ノート）』作成を中止させよう！

京都は「心の教育」の発信地として、「河合隼雄氏による心理主義的ナショナリズムの実験場」（野田正彰氏）と言われてきた。京都市教委の「道徳教育振興市民会議」（初代座長は河合隼雄）の「心の教育」振興キャンペーンが一段落したと思ったら、今度は京都府教委がなんと、『心の教科書』（「教科書」と書いて「ノート」とルビをふっているのも理解できないが）を作成することが明らかになった。昨年度に作成検討委員会も発足、内容や執筆者等の検討作業も始まっている。今年度末までに約12万部を作成して府下の全小・中学生に配布する予定だという。

●文部科学省発行の『心のノート』との類似性

この『心の教科書』は、文部科学省の『心のノート』の京都版である。

実際、『心の教科書』も、小学校低学年用、同中学年用、同高学年用、中学校用の4編をそれぞれ作成することや、内容構成の4つの柱も、『心のノート』と全く同じだ。

そしてなによりも、国家や教育行政が、一定の価値観や道徳の基準を定め、子どもたちに押しつけようとする点で、両者は、全く同一のものであるといえよう。それは、公権力による個人の内心への介入、精神的自由の侵害であって、憲法第19条に違反する。また、教育基本法第10条1項、2項が禁止する教育内容への介入であり、まさに「不当な支配」そのものであろう。

また、現行教育法制上、国家や教育行政が、『心のノート』や『心の教科書』のような教材を作成できないことも明らかである。

京都府教委は、我々の質問書に対して、作成の法的根拠は地教行法23条、48条と回答した。しかし、同法等で定められている教育行政の権限は、「教材の取扱に関する指導、助言」や「承認」であって、教材の「作成」ではない。国家・教育行政が教材を作成できるというのなら、それは、「主たる教材」である教科書の国定化につながり、戦前の国定教科書による教育内容の押しつけおよび統制の反省から生まれた戦後の教育制度そのものを否定することとなるからである。

●梅原猛、瀬戸内寂聴氏ら5人が「指導助言者」

---しかし、河合隼雄氏がやはり「黒幕」か？

京都府教委の『心の教科書』の一番の特徴は、「京都に多い、日本の英知である文化人や知識人の力を借りる」とされていることだ。

作成検討委員会の座長には、前日文研所長の山折哲雄氏。また、「指導助言者」として、梅原猛氏、瀬戸内寂聴氏、河合雅雄氏ら5名が監修にあたるという。そして、今後、学識経験者や文化人ら31名に執筆を依頼する予

定。まさに、京都を中心とした「文化人・知識人」が総動員されようとしているのだ。

我々は昨年来、京都府教委と交渉を続け、作成中止を求めるとともに、『心のノート』を作成した河合隼雄氏がこの計画に関与していないかと追及してきた。「教育は国家の統治行為である」「義務教育は納税と同じ若き国民の義務」などと主張するような人物が、子どもたちの「心のせんせい」として登場することは認められない。

今回、彼の名前は表には出ていない。しかし実際には、府教委の教育次長らが、昨年、2回にわたって文化庁に河合隼雄氏を訪ねて「指導」を受けている。作成検討委員会が発足したのは昨年11月だが、その前に府教委は、河合隼雄氏にお伺いをたてているのだ。

一方、前記の「指導助言者」らとは、今年の2月、課長らが短時間会っただけにすぎない。もう、ほとんどの内容が決まったというのに、まだ一度も会っていない「指導助言者」もいる。

結局、前記の「指導助言者」らは、失礼ながら、名前を利用されているだけとしか言えないようだ。

●「心の教育」は「学校発信の社会変革」

文科省の『心のノート』は、単に学校の子どもたちだけを対象にしたものではない。「学校発信の社会変革」と公然と主張されているように、家庭、そして地域社会までがターゲットとされている。京都府教委の『心の教科書』でも、「保護者、家庭の啓発」が特に強調されているが、このような国家・教育行政による家庭・地域社会への介入が「心の教育」のもう一つの特徴である。

京都市教委も、昨年から「しなやか道徳教育事業」を始めている。これは、河合隼雄氏が始めた「京都市道徳教育振興市民会議」の「市民への提言」を受けて、町内に「道徳専用掲示板」を設置したり、「生き方・価値観等を発信するニュース」を市民に発行するというものだ。いったい、何時から、教育委員会が、市民に「生き方」を指示する権限を持つようになったのであろう。

このように、『心のノート』や『心の教科書』作成配布は、特定の価値観の押し付け、教育内容への国家・教育行政の介入、家庭教育への介入など、まさに、教育基本法改悪の動きの先取り、実質化である。

我々は、4月21日、京都府教委に、全国の562名の連名で『心の教科書』作成配布を中止するようとの申入書を提出した。今後も、府教委への抗議を続けるとともに、「文化人・知識人」と言われる人たちが、この『心の教科書』作成に協力しないよう要請していきたい。

「心の教育」はいらない！市民会議